

平成 2 8 年度

# 「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立塩草立葉小学校

平成 2 9 年 3 月

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

本校の児童は、明るく元気で素直で外遊びが好きである。みんな遊びをしている学級も多く、全国運動能力・運動習慣調査では、本校児童の平均値は、全国平均をほぼ上回っている。学力面では、真面目に学習に取り組んでいるが、全国学力・学習状況調査においては、国語・算数とも全国平均より各領域で、5～10ポイント下回っている。文脈を読み取る力はいってきたものの、理解したことを自分の言葉で表現したり、書き表したりする力、聞き取ったことを相手にわかりやすく伝える力が相対的に弱いことが分かった。

また、高学年になるにつれて自尊感情が低くなり、自ら問題に気づき、自分たちで解決しようとする力もまだまだ育っていない。

体力面では、大阪市、全国平均に比べて、反復横跳びとボール投げが男女ともに点数が低いので学習内容に工夫が必要である。生活習慣の面でも、睡眠時間の少ない児童や歯磨きの習慣が身につけていない児童も少なくない。保護者への協力も呼びかけているが、なかなか改善されない家庭もある。

そこで、学校教育目標に下記の3点をかかげ、中期目標を設定した。

### 中期目標

○ 豊かな心を持ち、自ら考え、正しく判断できる子どもを育てる。

- ・ 基礎・基本を確実に定着させ、自ら学び考え判断し、最後までやりぬく力の育成。
- ・ 自尊感情の育成、一人一人のよさを認め合う集団育成。
- ・ 望ましい生活習慣にむけた保健指導、効果的な体力づくり

#### 【視点 学力の向上】

- ・ 全国学力調査の算数A、Bの平均正答率を全国平均に近づける。（カリキュラム改革関連）
- ・ 平成28年度末の算数の各学年の学習理解度到達診断（しんだん）における正答率8割以上の設問における正答率を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ・ 平成28年度末の児童アンケートにおける「授業の内容がわかる」と答える児童の割合を90%以上にする。（マネジメント改革関連）
- ・ 平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は子どもの学力を高めるよう努力している」と答える保護者の割合を90%以上にする。（ガバナンス改革関連）
- ・ 平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は教育内容、方針をわかりやすく伝えようとしている」と答える保護者の割合を100%に近づける。（ガバナンス改革関連）

#### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・ 平成28年度末の児童アンケートにおける「物を大切にしている、場に応じたあいさつができていて、正しい言葉遣いで話している」と答える児童の割合を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ・ 平成28年度末の児童アンケートにおける「自分にはよいところがある」と答える児童の割合を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ・ 平成28年度末の保護者アンケートにおける「危機から守る取り組みを進めている」と答える保護者の割合を90%以上にする。（ガバナンス改革関連）
- ・ 平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は子どもに人権を大切にする意識を育てようとしている」と答える保護者の割合を90%以上にする。（ガバナンス改革関連）

#### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ・ 平成28年度の全学年の新体力テストの3種目（50m走・ソフトボール投げ・立ち幅跳び）の合計得点を算出し、全国平均に近づける。（カリキュラム改革関連）
- ・ 平成28年度末の児童アンケートにおける「休み時間など、進んで運動場に出る」と答える児童の割合を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ・ 平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの健康面や体力づくりに努めている」と答える保護者の割合を90%以上にする。（ガバナンス改革関連）

## 2, 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【視点 学力の向上】

- ・平成28年度末の算数の各学年の学習理解度到達診断（しんだん）における正答率8割以上の設問における正答率を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ・平成28年度末の児童アンケートにおける「授業の内容がわかる」と答える児童の割合を90%以上にする。（マネジメント改革関連）
- ・平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は子どもの学力を高めるよう努力している」と答える保護者の割合を90%以上にする。（ガバナンス改革関連）
- ・平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は教育内容、方針をわかりやすく伝えようとしている。」と答える保護者の割合を100%に近づける。（ガバナンス改革関連）

### 【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・平成28年度末の児童アンケートにおける「場に応じたあいさつができています」と答える児童の割合を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ・平成28年度末の児童アンケートにおける「自分にはよいところがある」と答える児童の割合を80%にする。（カリキュラム改革関連）
- ・平成28年度末の保護者アンケートにおける「危機から守る取り組みを進めている」と答える保護者の割合を90%以上にする。（ガバナンス改革関連）
- ・平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は子どもに人権を大切にする意識を育てようとしている」と答える保護者の割合を90%以上にする。（ガバナンス改革関連）

### 【視点 健康・体力の保持増進】

- ・平成28年度の新体力テストを実施し、その結果をもとに、授業の改善を図ったり、体育科で学んだ運動の生活化を図ったりする。（カリキュラム改革関連）
- ・本年度、全学年で、正しい姿勢で座って学習できる児童を昨年より増やす。（ガバナンス改革関連）
- ・平成28年度末の児童アンケートにおける「休み時間など、進んで運動場に出る」と答える児童の割合を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ・平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの健康面や体力づくりに努めている」と答える保護者の割合を90%以上にする。（ガバナンス改革関連）

## 3, 本年度の自己評価結果の総括

本年度の教育活動全般について、目標の達成に向けて共通理解を図りながら、さまざまな取り組みを行った。

### 【視点 学力の向上】

- 平成28年度途中より、学習理解度到達診断（しんだん）の形式や実施方法が変わったため、今後しんだんに代わる評価の手だてを検討する。
- 平成28年度末の児童アンケートにおける「授業の内容がわかる」と答える児童の割合は、90%以上であった。  
（平成26年度 93%→平成27年度 96%→平成28年度 96%）
- 平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は子どもの学力を高めるよう努力している」と答える保護者の割合は、90%以上であった。  
（平成26年度 94%→平成27年度 96%→平成28年度 97%）
- 平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は教育内容、方針をわかりやすく伝えようとしている。」と答える保護者の割合は、100%に近づいている。  
（平成26年度 94%→平成27年度 96%→平成28年度 97%）

保護者及び児童アンケート結果では、学校の教育活動に対して肯定的な回答が圧倒的に多く、学力向上の取り組みの成果があらわれている。今後も、学校と家庭、地域が連携して学力向上を図っていく。

**【視点 道徳心・社会性の育成】**

- 平成28年度末の児童アンケートにおける「場に応じたあいさつができている」と答える児童の割合は、80%以上である。  
(平成26年度 94%→平成27年度 93%→平成28年度 97%)
- 平成28年度末の児童アンケートにおける「自分にはよいところがある」と答える児童の割合は、80%に以上である。  
(平成26年度 78%→平成27年度 86%→平成28年度 92%)
- 平成28年度末の保護者アンケートにおける「危機から守る取り組みを進めている」と答える保護者の割合は、90%以上である。  
(平成26年度 93%→平成27年度 92%→平成28年度 90%)
- 平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は子どもに人権を大切にする意識を育てようとしている」と答える保護者の割合は、90%以下である。  
(平成26年度 83%→平成27年度 85%→平成28年度 85%)

児童会によるあいさつ運動の取り組みや学級での指導等により、全教職員で指導に当たった結果、あいさつについての肯定的な回答が97%に達した。今後は、さらなる意識づけと教職員が一丸となって指導を進めていきたい。

**【視点 健康・体力の保持増進】**

- 平成28年度の新体力テストを実施し、その結果をもとに、授業の改善を図ったり、体育科で学んだ運動の生活化を図ったりした。  
→全学年で新体力テストの3種目(50m走・ソフトボール投げ・立ち幅跳び)の平均が全国平均を上回っているものは、男子は18種目中、12種目。女子は、18種目中、9種目であった。
- 本年度、全学年で、正しい姿勢で座って学習できる児童を昨年より増やすよう努めた。  
→姿勢体操や学級での姿勢指導などをねばり強く続ける。
- 平成28年度末の児童アンケートにおける「休み時間など、進んで運動場に出る」と答える児童の割合は、80%以下である。  
(平成26年度 70%→平成27年度 81%→平成28年度 75%)
- 平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの健康面や体力づくりに努めている」と答える保護者の割合は、90%以上である。  
(平成26年度 92%→平成27年度 95%→平成28年度 98%)

健康と体力の保持増進についての取り組みも、一定の成果があらわれている。全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は、男子は立ち幅跳び、女子は20mシャトルラン、立ち幅跳び、ソフトボール投げが、全国平均を上回っている。  
今後も、体育学習や体育的な行事、身近な遊び等を通して、体力向上を図っていく。  
また、体力向上に向けて、学校と家庭、地域の連携をさらに進めていく。

## 大阪市立塩草立葉小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 学力の向上】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度末の算数の各学年の学習理解度到達診断（しんだん）における正答率8割以上の設問における正答率を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）</li> <li>平成28年度末の児童アンケートにおける「授業の内容がわかる」と答える児童の割合を90%以上にする。（マネジメント改革関連）</li> <li>平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は子どもの学力を高めるよう努力している」と答える保護者の割合を90%以上にする。（ガバナンス改革関連）</li> <li>平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は教育内容、方針をわかりやすく伝えようとしている。」と答える保護者の割合を100%に近づける。（ガバナンス改革関連）</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<b>取組内容①【 算数 】</b> 研究教科を算数科とし、昨年度の「しんだん」の問題分析・結果分析を行い、全体研修会で共通理解し、授業力の向上に活かす。 金曜日の朝学の時間に全学年が算数の練習問題に取り組む。（カリキュラム改革関連）	A
<b>指標</b> 算数科の授業研究会を全学年で実施する。 毎週金曜日に全学年が朝学を実施する。	
<b>取組内容②【 教職員の資質向上 】</b> 大阪市教育センターや他校の授業研究会に参加できる体制を整えたり、校内研修会を行ったりし、指導力の向上に努める。（マネジメント改革関連）	B
<b>指標</b> 研究授業を全学年で実施する。 大阪市教育センター等で行われる研修会に、全ての教員が年2回以上参加する。	
<b>取組内容③【学校・家庭・地域の連携の推進関連】</b> 毎月発行する学年だよりで、学習内容（算数ノート・授業の様子等）について詳しく記載する。 学校だよりで、研究授業での保護者アンケートの結果を公開する。 ホームページで、算数科の研究授業について掲載する。（ガバナンス改革関連）	B
<b>指標</b> 毎月1回学年だよりを発行する。 学年だよりに、学習内容や、人権教育・性教育などの内容を掲載する。 全学年の研究授業を保護者・地域に公開する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 昨年度の「しんだん」分析から、児童の課題を把握し、朝学や放課後学習ルームの教材選定に活かすことができた。また、児童の実態に合った授業研究会を全学年実施することができた。平成28年度末（H28. 12月実施）の児童アンケートにおいて、「授業の内容がわかる」と答えた児童が、算数科で94%、国語科で96%であり、また、平成28年度末の保護者アンケート（H29. 1月実施）における「学校は子どもの学力を高めるよう努力している」と答えた保護者が90%であり、取り組みの成果があらわれた。
- ② 大阪市教育センター等で行われる研修会に必要な応じて参加したり、ICTや英語等の校内研修会を実施したりすることにより、教員の授業力向上に役立てることができた。
- ③ 学年だより、学校だより、ホームページを通して、学習の様子を家庭、地域に発信することができた。

次年度への改善点

- ① 英語のモジュール授業の開始に伴い、朝学のあり方を検討する。  
「しんだん」の実施内容変更に伴い、「しんだん」に変わる、児童の課題把握の仕方について検討する。  
※3～6年生＝大阪市小学校学力経年調査  
1～2年生＝学年末テスト（東書ライブラリー等）
- ③ 学年だよりでは、性教育の内容を記載して理解を求めることが十分でないため、保護者への発信方法を検討する。

## 大阪市立塩草立葉小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<b>【視点 道徳心・社会性の育成】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度末の児童アンケートにおける「場に応じたあいさつができています」と答える児童の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)</li> <li>平成28年度末の児童アンケートにおける「自分にはよいところがある」と答える児童の割合を85%以上にする。(カリキュラム改革関連)</li> <li>平成28年度末の保護者アンケートにおける「危機から守る取り組みを進めている」と答える保護者の割合を90%以上にする。(ガバナンス改革関連)</li> <li>平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は子どもに人権を大切にする意識を育てようとしている」と答える保護者の割合を90%以上にする。(ガバナンス改革関連)</li> </ul>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
<b>取組内容①【道徳教育の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の課題について全教職員で共通理解をし、課題解決に向けて、保護者・地域・関係機関と連携する。</li> <li>生活目標強調月間を設定して、児童が自己評価できるようにする。</li> <li>児童会活動と連携し、生活習慣についての取り組みを進める。(カリキュラム改革関連)</li> </ul>	B
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の課題を把握するため、月1回事例研修会を行い、全教職員で共通理解をする。</li> <li>年3回(6、11、2月)、生活目標強調月間を設定する。</li> <li>年に2回、児童会を中心に「あいさつ」についての取り組みを行う。</li> </ul>	
<b>取組内容②【道徳教育の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自尊感情を高めていくという目標のもと、集団作りに取り組み、児童のできたことに対して、すぐに賞賛の言葉を与える。また、「ありがとう」の言葉を返すことによって、児童の自己肯定感・自尊感情を高める。(カリキュラム改革関連)</li> </ul>	A
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケート「自分にはよいところがある」と答える児童の割合を85%以上にする。</li> </ul>	
<b>取組内容③【安全教育の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練を実施し、様々な学校危機に対して組織的に対処することができるようにする。</li> <li>交通安全指導年間計画に基づき、交通ルールの基本的なことを理解し、安全に生活ができるようにする。</li> <li>「安全防犯の日 年間計画」に基づき、月の初めに各担当から講話を行い、危機を回避して安全な行動をとることができるようにする。(ガバナンス改革関連)</li> </ul>	B
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学期(地震・津波・火災)、2学期(台風)、3学期(地震)の計4回取り組む。</li> <li>1学期(集団歩行・電車の乗り降り)、2学期(自転車の乗り方)、3学期(歩行・横断のまとめ)の計3回取り組む。</li> <li>「危機管理マニュアル」の内容を、月1回指導し、学級で防犯ブザーの点検を行う。</li> </ul>	
<b>取組内容④【人権を尊重する教育の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育年間計画に沿って、人権教育を推進していく。</li> <li>各学級の実態に応じた課題に取り組み、交流の場を設ける。(ガバナンス改革関連)</li> </ul>	B
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>月に1回配慮を要する児童の実態を共通理解する場を設け、全教職員で共通理解し、学校組織として一人一人の児童に関わっていく。</li> <li>配慮を要する児童について、「個別の指導計画」の作成・活用をすすめ、年2回の見直しを行い、教職員で共通理解する。</li> <li>学校だよりやホームページ等で、人権教育の実践を保護者に発信する。</li> <li>在日外国人児童・ルーツを持つ児童について、年1回教職員で共通理解をする場を設ける。</li> </ul>	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 職員会議後に、児童の様子について共通理解する場を設け、課題解決に向けて全教職員で協力することができた。  
生活目標強調月間やあいさつ週間で、子どもたちが意識して取り組んでいるのが感じられた。朝の登校時、元気よくあいさつができています。
- ② 学習場面だけでなく、学校生活の多くの場面で、称賛の言葉をかけることができています。  
友だちによいところを伝える活動を通して、自らのよさに気づくことができた。  
児童アンケートで「自分にはよいところがある」と答える児童が92%にのぼり、昨年度よりも6%増えた。
- ③ 避難訓練を計画的に実施することができた。さらに、今年度は、10月に地域の方、消防署とも連携して、防災訓練と合わせて実施したり、事前に避難訓練の日程を周知せずに行ったりするという工夫もでき、より児童の危機管理意識を高めることができた。  
交通安全指導についてもたてわり遠足がなくなったことに対しても臨機応変に対応し、計画的に実施することができた。
- ④ 年間計画に沿って人権教育を進めることができた。  
各学級の実態に応じた実践を、校内で報告し合い、交流することができた。

## 次年度への改善点

- ① 自尊感情を持てるような取り組みについて、声のかけ方や適切な支援について共通理解する機会があるとよい。  
あいさつ週間が終わるとあいさつが減るように感じるので、期間以外もしっかりあいさつができるように継続指導する。
- ② 次年度の避難訓練では、月曜日に予告した後、今年度とは違う曜日（月曜日以外）で実施し、より実践的に行う。交通安全指導については、行事等に合わせた計画の立案、資料の見直しやゲストティーチャーを呼ぶなど、より効果が得られる実践を行っていく。  
学級によっては、保護者アンケートで「危機管理に関する事柄を家庭に適切に伝えている」という設問に対して、そう思うと回答したのが、79%であったため、保護者への伝達の仕方を考えていかなければならない。
- ③ 学級の中にいる一人ひとりが個性を持った存在であることをお互いに認め合う取り組みを進めていく。  
6年間を通して、系統立てた人権教育を進めていけるよう、人権教育部で、基本となる人権教育の年間指導計画を作った方がよい。  
配慮を要する児童や気になる児童について、校務支援パソコン内にはデータとして入っており、必要な時に見ることができるようになっている。今後、さらに共通理解をすすめていきたい。  
保護者アンケート「学年に応じて、子どもに人権を大切にする意識を育てようとしている。」という設問に対して、85%がそう思う・ややそう思うと答えているが、12%がわからないと回答している。毎月配付する学年だよりの裏に7月号と2月号で実施した人権教育について知らせる。



## 大阪市立塩草立葉小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【視点 健康・体力の保持増進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度の新体力テストを実施し、その結果をもとに、授業の改善を図ったり、体育科で学んだ運動の生活化を図ったりする。(カリキュラム改革関連)</li> <li>本年度、全学年で、正しい姿勢で座って学習できる児童を増やす。(ガバナンス改革関連)</li> <li>平成28年度末の児童アンケートにおける「休み時間など、進んで運動場に出る」と答える児童の割合を80%以上にする。(カリキュラム改革関連)</li> <li>平成28年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの健康面や体力づくりに努めている」と答える保護者の割合を90%以上にする。(ガバナンス改革関連)</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<b>取組内容①【 体育科の授業の充実 】</b> 新体力テストの結果を分析し、身につけさせたい力を伸ばす内容を授業の中に取り入れる。(カリキュラム改革関連)	B
<b>指標</b> 新体力テストの結果から、身につけさせたい力を伸ばす内容を決めてそれを継続して授業の中に取り入れる。「運動のコツ DVD」などの視聴覚機器を活用する。	
<b>取組内容②【 体力向上への支援 】</b> 体育科で学んだ運動の生活化を図り、休み時間や放課後の運動遊びを充実し体力の向上に努めるようにする。(カリキュラム改革関連)	A
<b>指標</b> 休み時間や昼休み、放課後には、できるだけ運動遊びに取り組めるようにする。	
<b>取組内容③学校・家庭・地域の連携の推進】</b> 正しい姿勢で座って学習できる児童を増やす。(ガバナンス改革関連)	B
<b>指標</b> 正しい姿勢について知り、体幹を鍛えたり、姿勢体操に取り組んだりする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 新体力テストの結果から、持久力やボールを投げる力に課題があることなど、児童の実態把握ができた。そこで、持久力を高めるために時間走やなわとびを体育の学習時に毎回取り入れたり、ボールの投げ方や受け方を指導してその後のみんな遊びに活用したりした。また、跳び箱やマット運動の学習時に「運動のコツ DVD」を視聴し、スロー再生や解説入りの動画を観ることで児童が理解しやすく良い動機づけとなった。</p> <p>② 体育科で学んだおに遊びやドッジボール、プレルボール、バスケットボールなどを休み時間や放課後に楽しむ姿が多く見られた。かけ足タイムをきっかけにマラソンカードの活用が進んだ。</p> <p>③ 毎週月曜日の児童朝会で姿勢体操に取り組むことができた。その結果、正しい姿勢について意識する児童が増えつつある。今後も姿勢体操を継続して取り組んでいく。</p>
次年度への改善点
<p>① 伸ばしたい力が伸ばせたかどうかを比較するためには、50メートル走を2回実施するよりも、授業に取り入れた運動を定期的にチェックしていく方が良いのではないだろうか。</p> <p>② 遊んでいる最中のけがが増えているので、昼休みに運動場を安全に使うための対策が必要である。</p> <p>③ 姿勢体操の中の一つ一つの体操を丁寧に組みこませるための工夫が必要である。</p>